

北海道東部地域での白鳥調査

今野 重郎 玉田 誠

Observations of swans in Eastern Regions of Hokkaido

Summary: Observation of *Cygnus cygnus cygnus* (Whooper swan) in Kushiro and Nemuro regions was taken place on March 27. As the result, many dirty swans (mainly dirty neck and head) were observed in each lake, marsh, coast and river. Especially in Lake Akkeshi, the number of dirty swans reached one half of 640 counted birds, and a few of these fellows were found at Lake Tofutsu in March. There were no marked swans in these places. About 3,000 birds were counted in this observation.

Swans in Abashiri region were observed on April 29. The total number of counted birds were only 335. 2092, banded at Kominato, Aomori prefecture (the last observation of her at Lake Tofutsu was on March 15) was found at Kimuaneppu of Lake Saroma, and almost one third of 118 birds in this lake were immature. But about 1,000 birds left Lake Tofutsu several days before were not observed. Dirty swans were also observed in this region.

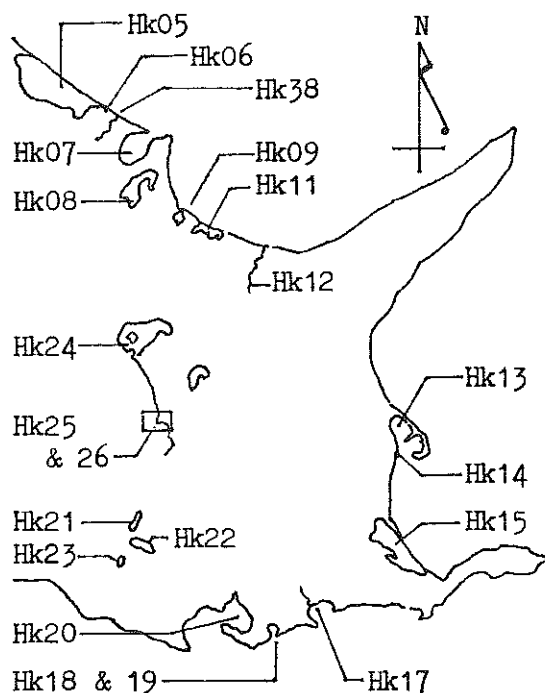


Fig.1 Lakes, Marshes and Rivers in Eastern Region of Hokkaido

1984年の春、越冬地からの北上群のはしりは3月4日の“首よごれ”の2羽、同11日の2C92、19日の2C01等の再飛来によって確認されたが、在湖総数は3月19日現在287羽に過ぎなかった。越えて3月25日の調査では総数は610羽となり、2C15、2C90の再来していることも確認された。2C90は屈斜路湖(Hk24)の仁伏で、又2C15は川湊(Am10)で越冬していることが確認されているので濤沸湖への集結は確実に行なわれているものと判断された。よってこの過渡期に(北海)道東南部(釧路・根室支庁管内)の湖沼川に憩う白鳥数などについて調査することとし、3月27日に実施した。ちなみに3月25日の濤沸湖の様子は、第2図に示す通りであり、湖面の解氷率は10%以下であったが、北上群の目安の一つである“首よごれ”は3月19日以来幼鳥1羽を伴ったペアが増加していた。

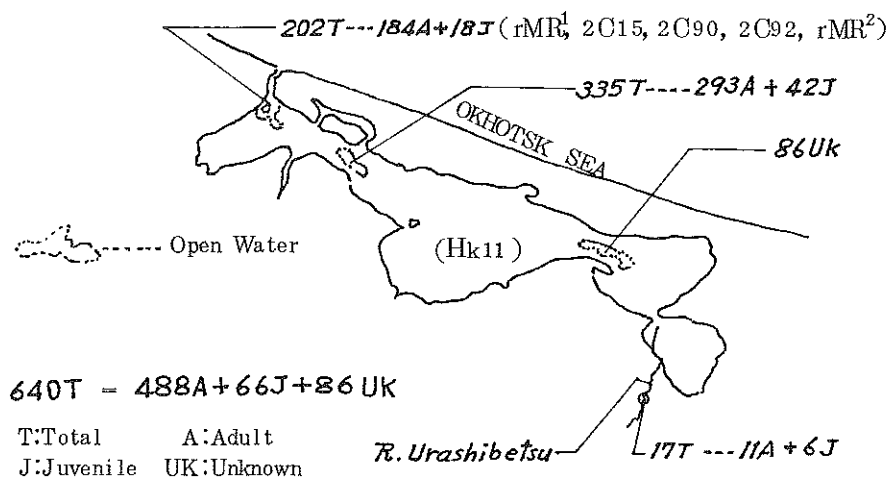


Fig. 2 Numbers and marked swans at Lake Tofutsu (Hk11) on March 25, 1984

以下、各湖・沼・川での調査結果は次の通りである。

屈斜路湖 (Hk24) …Fig. 3

湖面は全面的に結氷しており、温泉の湧出している4地点でカウントされた。前回(3月9日)の調査値より30羽程増加していたが、2C90を含む群の濤沸湖への移動や、湖の家前には13羽の“首よごれ”が確認されたことから相当数が北上群と入れかわったものと考えられた。

釧路川 (Hk25) と 鑓別川 (Hk26) …Fig. 3

共に弟子屈市街内の調査値で、3月9日の調査値より7羽減少していたが、弟子屈駅前のパンスイ橋の下に憩っていた成鳥6羽幼鳥5羽の群のよごれかたは、一頭地を抜くもので、最近の飛来と思えた。

シラルトロ湖 (Hk21) …Fig. 4

ここも全面的に結氷しており、国道391号線沿いの2箇所の開水面に憩っていた。約3分の1が“首よごれ”で北上群と認められた。カウント数142羽。

Fig. 3 L. Kussharo (Hk24), R. Kushiro (Hk25) & R. Tobetsu (Hk26)

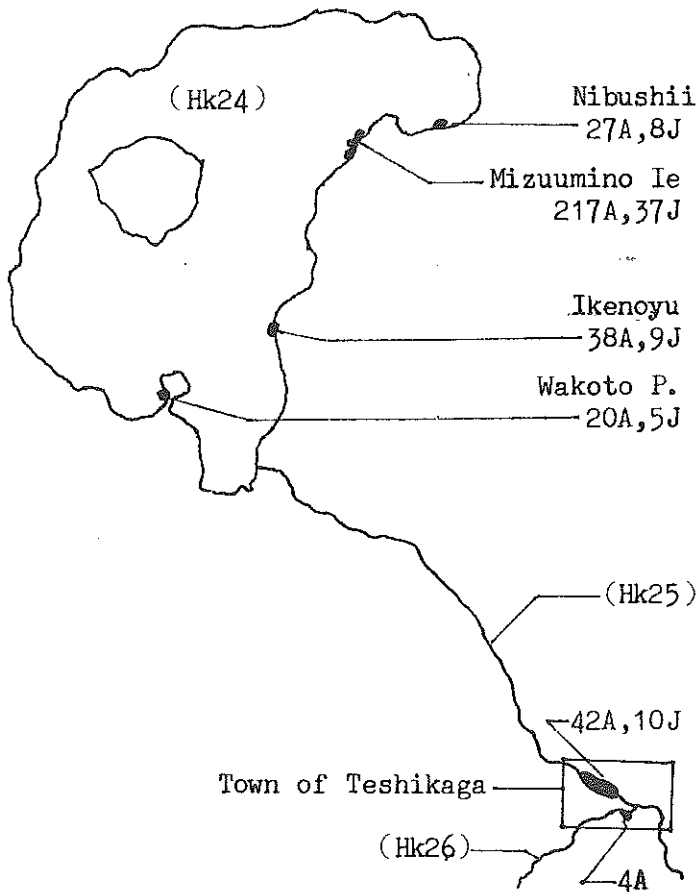
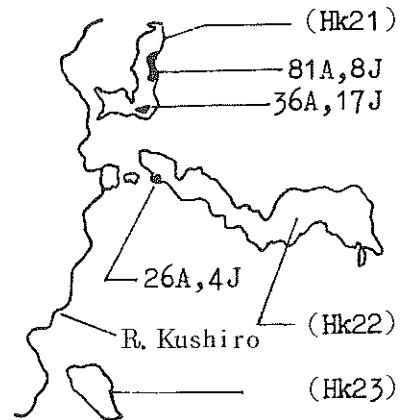


Fig. 4 L. Shirarutoro (Hk21)
L. Toro (Hk22) & L. Takikobu (Hk23)



塘路湖 (Hk22) … Fig. 4

ここもまだ全面結氷しており猫の額程の開氷面に30羽が憩っていたが、食は足りているらしい様子で人が近付いても泳ぎ寄ることも遠のくこともしなかった。「首よごれ」の白鳥はいなかった。達古武沼Hk23は道程の都合上調査はできなかった。

厚岸湖 (Hk20) … Fig. 5

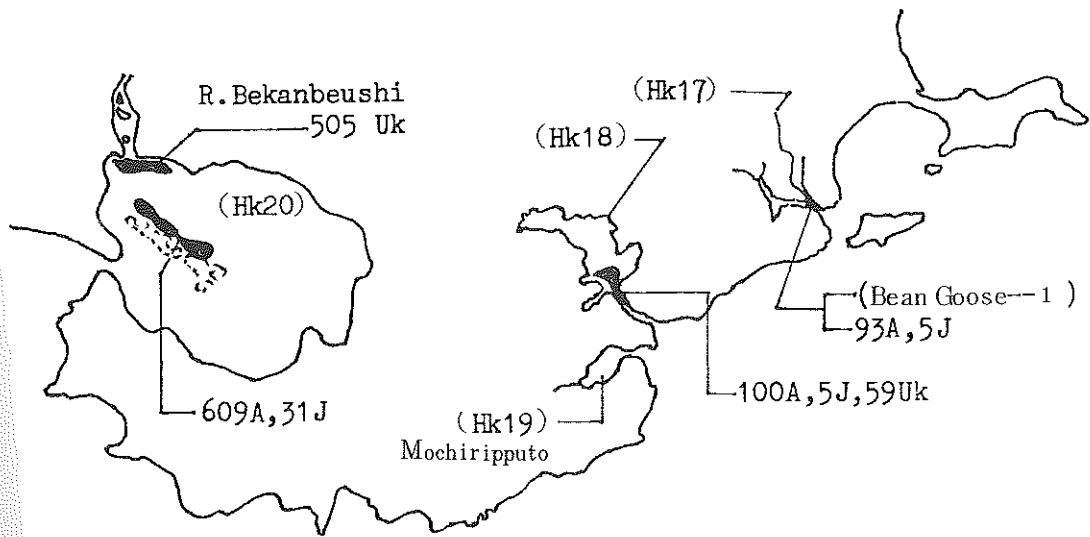
全面的に結氷している湖沼ばかり見てきた我々の目には、青々とした水をたたえているこの湖は一種異様にさえ映じた。白鳥はペカンペ牛川の河口付近と湖の西部域に群棲していた。後者の群の半ば以上が「首よごれ」であって、前者とは明らかに越冬地が別の集団であり、「首よごれ」の根拠地の観があった。カウント総数は、1,145羽にも達したが実数はもっと多いと思われる。標識鳥がいるとすれば前者の群の中とかなり精査したが確認することができなかった。

火散布沼 (Hk18) と藻散布沼 (Hk17) … Fig. 5

藻散布沼は全面結氷していて白鳥の姿を見ることができなかったが、火散布沼では僅かながら開水面があって、164羽もの白鳥が羽根を休めていた。厚岸湖と隣り合っているが、周囲が山地である両沼の解氷は意外に思う程遅いのである。

「首よごれ」の姿は見掛けなかった。

Fig. 5 L. Akkeshi(Hk20), L. Hichirippu(Hk18), Mochirippu(Hk19) & R. Biwase(Hk17)



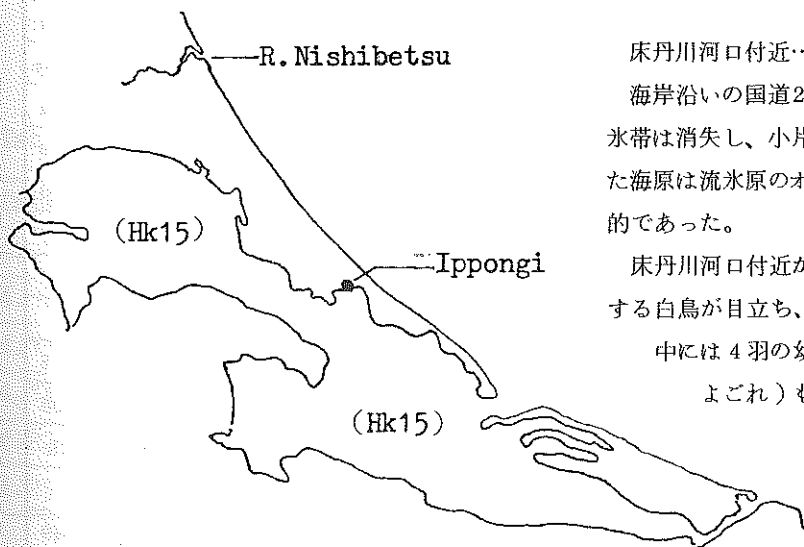
琵琶瀬川 (Hk17) …Fig. 5

河口近く道々の橋をはさんだ開水面に憩っていた。橋の上手の17羽はうすよごれていて、明らかに北上群と認められた。ヒシタイが一羽橋の下手の群の中に混じっていて彩りを添えていた。

風蓮湖 (Hk15) …Fig. 6

一本木から見た風蓮湖は、見渡す限りの雪氷原で、白鳥とは何のかかわりも無いといった様相であった。

Fig. 6 L. Furen(Hk15)

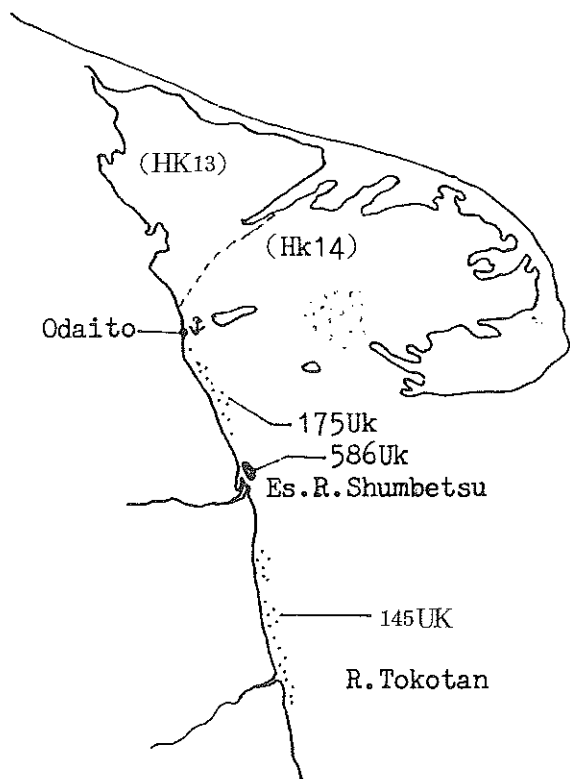


床丹川河口付近…Fig. 6

海岸沿いの国道244号線を北上する。大流水帯は消失し、小片が所々に浮かぶ青々とした海原は流氷原のオホーツク海とは極めて対照的であった。

床丹川河口付近から北の海岸線沿いに散在する白鳥が目立ち、その数は145羽を数え、中には4羽の幼鳥を伴ったペアの姿(首よごれ)も見受けた。

Fig. 7 Odaito(Hk14) & Northern Part of Notsuke Bay(Hk13)



尾岱沼 (Hk14) … Fig. 7

春別川河口付近に約600羽の比較的まとまった集団が居り、尾岱沼市街に至る海岸沿いに175羽が散在して採食していた。目を東方の海上に転ずると野付半島を背にして2,000羽を越えると思われる白鳥群が翹っていた。春別川河口付近の群の中には標識鳥は発見できず、“首よごれ”の白鳥の数は158羽にも達して北上群の存在を確認し得た。

野付湾北部 (Hk13) … Fig. 7

尾岱沼市街の北はずれと無名砂嘴を結ぶ線上以北は再び雪氷原と化して白鳥の姿を見ることはできなかった。

総括

今回の調査の結果を付表1として右に掲げる。カウント総数は約3,000羽に達し、野付湾南部の大群団を加えるとその数は優に5,000羽を越えることになり、日本で越冬するオオハクチョウの約2分の1及至3分の1がこの時期、道東南部地域に展開して北帰に備えていることを知ることができた。又、“首よごれ”の白鳥が調査したほとんどの湖沼川で確認され、その数が550羽にも達したことも記録されるべき一事であって、これ等“首よごれ”の白鳥の越冬地が判明すれば、一部のオオハクチョウの移動ルート

Table 1 Result of observation

Location	Ad.	Juv.	Uk.	Total	Dirty
Kussharo	302	59	0	361	13
R. Kushiro	42	10	0	52	11
R. Tōbetsu	4	0	0	4	0
Shirarutoro	117	25	0	142	44
Tōro	26	4	0	30	0
Alkeshi	609	31	505	1,145	300
Hichirippu	100	5	59	164	0
R. Biwase	93	5	0	98	17
Fūren	—	—	0	—	—
R. Tokotan	2	4	139	145	6
R. Shumbetsu	—	—	586	586	158
Odaito	—	—	175	175	Uk
N. B. Notsuke	—	—	0	—	—
Totals	1,295	143	1,464	2,902	549

が明らかになるであろう。

壽沸湖を優っていた氷が全解したのは4月27日であって、例年より1週間乃至10日も遅かった。最大数を観察した4月18日の壽沸湖の様子は下図に示す通りで、解氷率は30%強と考えられる。4月8日以後は例の“首よごれ”の白鳥は白鳥公園(北浜)のみでも30数羽がカウントされたこともあった。又、最終的標識鳥2C57も24日を最後として姿を消した。

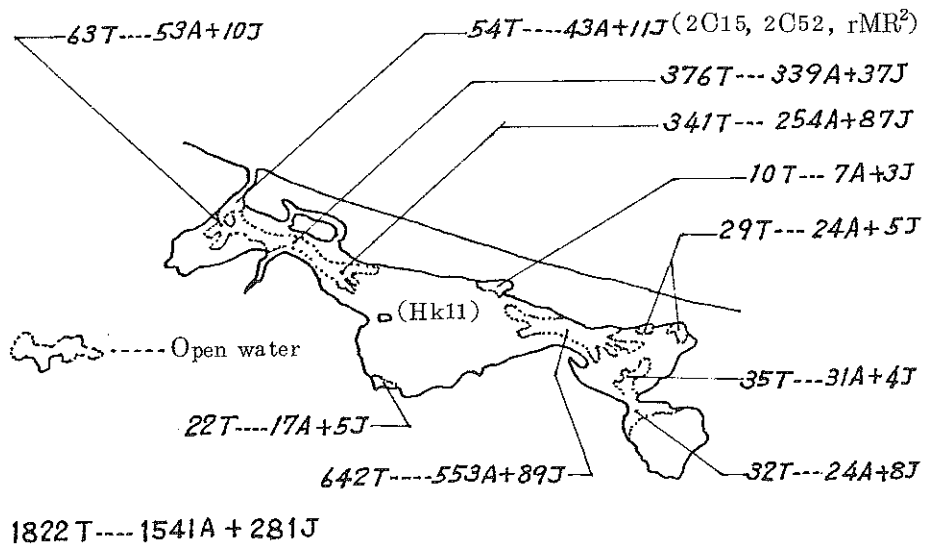


Fig. 8 The biggest numbers at Lake Tofutsu(Hk11) in April 18, 1984

我々は壽沸湖を後にした白鳥たちがダイレクトに北上するのか、(北海)道東北部の湖沼川に止まっているのかどうかを調査することとし、4月29日に実施した。各湖沼川の調査結果は次の通りであるが、4月中の壽沸湖でのカウント結果を付表2として下に掲げる。

Table 2 Numbers of *C. c. cygnus* counted at Lake Tofutsu In April 1984

Date	Ad.	Juv.	Uk.	Total	Marked swan etc.
4. 1	414	41	63	518	2C15, 2C92, rMR ¹ , rMR ²
4. 8	690	165	218	1073	2C15, 2C92, 2C57, 2C01, 3C30, rMR ² , lMR ¹
4.15	387	69	1232	1688	2C15, 2C92
4.18	1541	281	0	1822	2C15, 2C52, rMR ² , 18 Geese
4.22	1419	271	56	1690	2C57
4.29	786	126	86	998	

濤沸湖 (Hk11) … Fig. 9

998羽が在湖していたが白鳥公園の数が激減しており、標識鳥も確認することができなかった。東部地域に偏在していた集団の幼鳥が18.7%にも達するのは出生の遅かった幼鳥を伴ったペアの集りと考えられる。

藻琴湖 (Hk09) … Fig. 9

急激な融雪と畑地の均平化が原因の泥水が流入して湖面全域が赤茶けた色を呈し、昨日の正午過ぎに見られた4羽の姿を見ることができなかった。

Fig. 9 L. Tofutsu (Hk11) & L. Mokoto (Hk09)

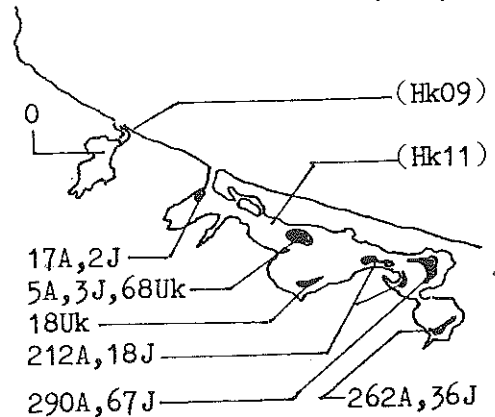
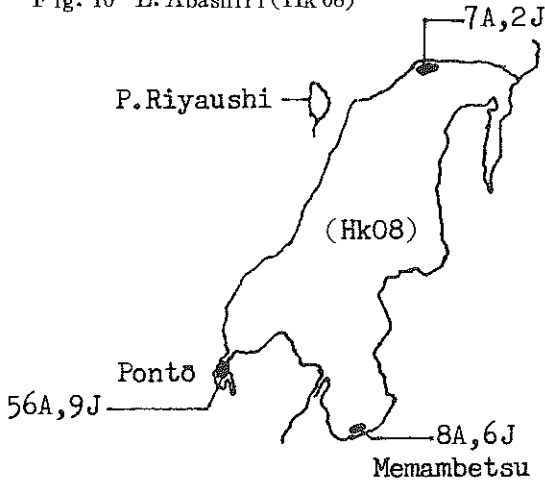


Fig. 10 L. Abashiri (Hk08)



網走湖 (Hk08) … Fig. 10

1. 女満別駅裏 (湖畔)

温泉の流入部が厳冬期も結氷せず、3年程前から白鳥が憩いはじめ今春は300羽にも達した日もあったという。4月15日、湖面は全面的に結氷していたが、ここで成鳥118羽・幼鳥44羽・コハクチョウ4羽が憩っていたが、11日にはいたというコブハクチョウ1羽の姿はなかった。4月8日前後には3C11^{*1}、及び3C23が、又24日から27日迄は3C37も羽根を休めていったというが、これ等の標識鳥は濤沸湖ではリサイトされなかった。

2. ポントー

成鳥56羽・幼鳥9羽がカウントされ「首よごれ」が12羽混じっていた。前出の湖畔は自然餌の全くない所で、人工給餌にたよっているわけだが、ここには豊富に存在し湖畔の群も利用している様子であった。その他湖の北部で9羽が国道238号線から観察された。

能取湖 (Hk07) … Fig. 10

ほぼ一周しての調査になったが、国道238号線沿いの岸边に成鳥8羽を見出したに過ぎなかった。ポント沼にはまだ9羽が憩っていたが「首よごれ」は1羽も見当らなかった。

Fig. 10 L. Notoro & Es. R. Tokoro (Hk07)

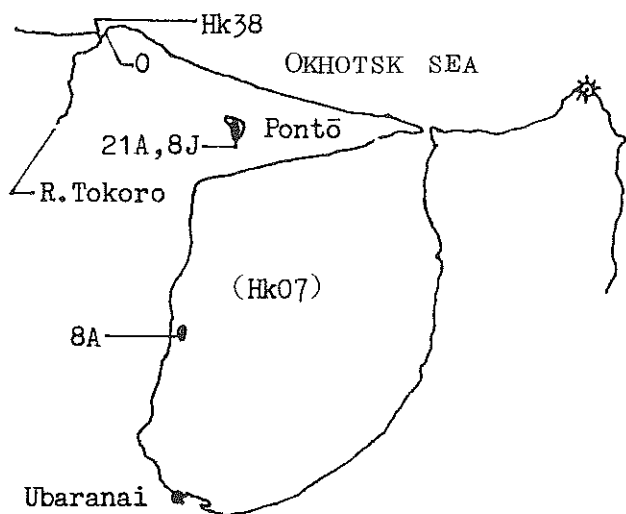
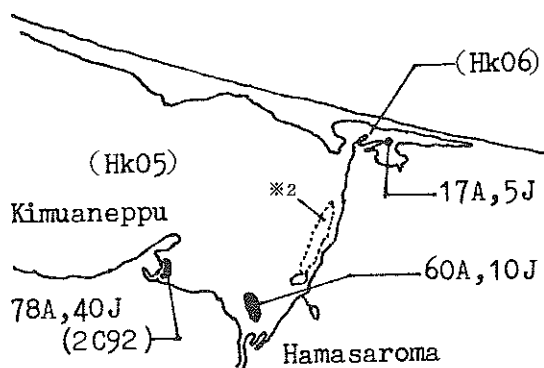


Fig. 11 Sakaaura (Hk06) & L. Saroma (Hk05)



総括

最大羽数 1,822 羽をカウントした 4 月 18 日以後、濤沸湖をあとにした白鳥は 800 羽を超えるのに今回の調査では 335 羽を数えたに過ぎなかった。残りの 500 も直接北方域へ飛去したものか、他の湖沼川^{※4}に移動したものか明らかにはなし得ない。2 C92 のリサイトは濤沸湖と無縁でないことを物語るものであろうが、「首よごれ」などダイレクトにこの方面に飛来して憩う鳥も少くはないように思える。調査結果を付表 3 として次に掲げる。

常呂川河口 (Hk38) … Fig. 10
 厳冬の退避場所の一つで 100 羽を越えた記録もあるが、春の移動期に立寄ることはないという情報を得た。

栄浦 (Hk06) … Fig. 11
 22 羽が散在していたに過ぎず「首よごれ」も見受けなかった。

佐呂間湖東部 (Hk05) … Fig. 11

1. 浜佐呂間 (佐呂間別河口)

成鳥 60 羽・幼鳥 10 羽が憩っていたが、3 分の 1 程は「首よごれ」鳥であった。

2. キムアネップ

前出の佐呂間別河口と往来している。成鳥 78 と幼鳥 40 羽が憩っていた。幼鳥の比率 33.9 パーセントという値は稀に見る高率である。そして、そのほとんどが 30 パーセント以上の幼鳥羽を残していた。出生の遅かった子供をかかえて北帰をおくらせているペア (10 家族内外) の集団と考えられる。約 25 羽の成鳥は「首よごれ」であった。中に 2 C92^{※3} が混在、4 月中頃に飛来したという。

Table 3 Results of observation in Abashiri region

	Ad.	Juv.	Uk.	Total	Dirty	Remarks
L. Mokoto	0					
L. Abashiri	71	17	0	88	0	(3C11, 3C23, 3C37)
L. Notoro	29	8	0	37	0	
Es. R. Tokoro	0					
Sakaeura	17	5	0	22	0	
L. e. Saroma	138	50	0	188	55	2C92
Totals	255	80	0	335	55	

- ※¹ 3C11は1983年1月22日に小湊で着標され同年12月には濤沸湖でもリサイトされた。又3C23は1983年12月17日に野辺地川河口で、3C37は同年12月18日に小湊に於て着標されたものである。
- ※² 佐呂間湖東部では、最も早く解氷する所で500近い白鳥が憩うこともあるが、大部分が“首よごれ”であった。
- ※³ 2C92は、1982年1月23日に青森県小湊で着標された。(Ad. ♀) その軌跡は下記の通り。
 (1981 年 期) 小湊→様似川→サロマ湖→シベリア (2C95と共に)
 (1982 年 期) シベリア→濤沸湖→小湊→濤沸湖→シベリア
 (1983 年 期) シベリア→濤沸湖→小湊→濤沸湖→サロマ湖→シベリア
- ※⁴ 佐呂間湖の他の区域、コムケ湖、シブノツナイ湖及び河川等。

尚、屈斜路湖及び弟子屈市街内の釧路川に於ける調査結果を付録として別掲する。

Shigeo Konno Asahi-1, Koshimizu-cho, Shari-gun, Hokkaido 099-36

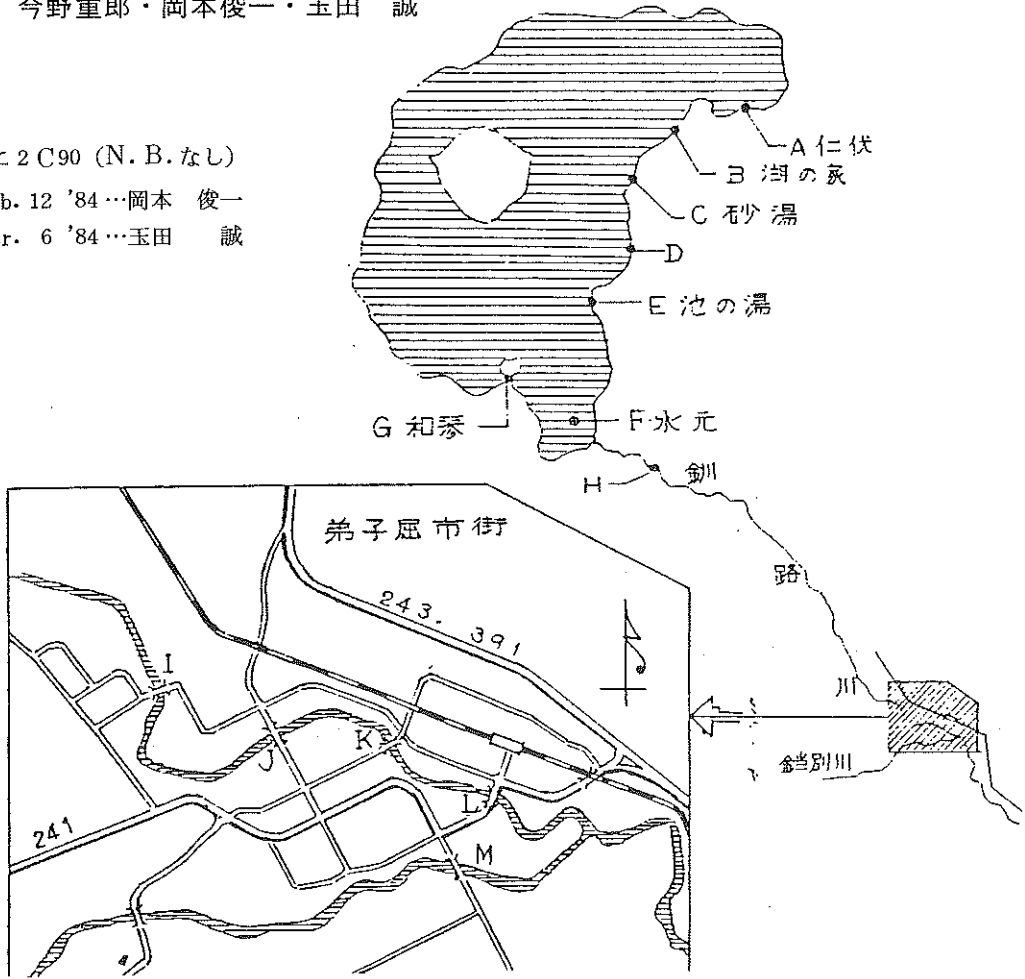
Makoto Tamada Koshimizu-8, Koshimizu-cho, Shari-gun, Hokkaido 099-36

屈斜路湖の白鳥調査記録 釧路川

1983 年 期

今野重郎・岡本俊一・玉田 誠

Aに2C90 (N. B.なし)
Feb. 12 '84...岡本 俊一
Mar. 6 '84...玉田 誠



月・日	成 幼	屈 斜 路 湖									釧 路 川								
		A	B	C	D	E	F	G	他	合 計	H	I	J	K	L	M	合 計		
Jan. 15	A	31	409	2	16	53	10	21	0	542	607		4	2	4		0	10	13
	J	14	36	0	1	6	3	5	0	65			0	0	3		0	3	
Feb. 12	A	26	627	2	0	47	5	17	6	730	799		15	5	12		14	46	54
	J	9	43	0	0	7	0	5	5	69			1	2	2		3	8	
Mar. 6	A	16	199	2	0	42	0	20	0	279	340	1	10	19	7	13	2	52	63
	J	7	42	0	0	7	0	5	0	61			0	0	6	0	5	0	
Mar. 26	A	27	217	0	0	38	0	20	0	302	361	0	0	36	0	6	4	46	56
	J	8	37	0	0	9	0	5	0	59			0	0	5	0	5	0	

Mar. 5 '84